

# 魅力発信！えひめ農業

令和7年6月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、6月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

## 目次

目次	1
6月のトピックス5選	3
いちごの病害虫対策を学ぶ講習会を開催	3
さといも講習会の開催	3
JA 就農研修生に対する就農支援方策を協議	4
くり栽培における省力化技術の普及に向けて	4
水稻乾田直播栽培の実証試験、順調！	5
えひめ農業	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
白いもの苗増殖や長期貯蔵に向けた取組みがスタート	6
別子山地域で夏野菜の生産を推進	6
産直市出荷者確保に向けた野菜栽培講習会を開催	7
「親芋直接採取増殖法」の実証状況を生産者に報告	7
農福連携でさといも収穫の労働補完を推進	8
青年農業者が水稻の乾田直播ほ場でスマート農機による作業を研修	8
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	9
天満集落で鳥獣害対策の実施方法を検討開始	9
田植え体験学習による食育活動を支援	9
「やまじ丸」産地振興対策検討会を開催	10
■東予地方局 産地戦略推進室	10
ぶどう栽培拡大を目指し栽培講習会を開催	10
■今治支局 地域農業育成室	11
「紅プリンセス」の夏季管理指導（菊間地区）	11
園地巡回等を通じて「紅まどんな」（施設）の夏季管理を指導	11
さといも新增殖法の定期巡回を実施	12
若手女性農業者交流会を開催	12
なし園の鳥獣害防止対策	13
■今治支局 産地戦略推進室	13
いちご単肥配合による肥料コスト削減を実証	13
メロンの仕立て方比較試験の果実調査を実施	14
■中予地方局 地域農業育成室	14
次世代かんきつ整備園強化事業でワーキングチーム会を開催	14
青年農業者が高温対策技術を学ぶ	15
ユウカリ株枯れ症状低減に向けた取組み	15
若手女性農業者が摘果方法を学ぶ	16
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	16
「媛かぐや」産地育成推進会議を開催	16

水田抑草ロボ「アイガモロボ2」の実演会を開催	17
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	17
雑穀の生産拡大に向け種苗を配布	17
■中予地方局 産地戦略推進室	18
「甘平」「紅プリンセス」の生産安定に向けて!	18
■南予地方局 地域農業育成室	18
いちご育苗時の高温対策技術を講習	18
第1回ニューファーマー講座の開催	19
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	19
マイコス菌コーティング種子を用いた乾田直播にチャレンジ!	19
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	20
認定農業者を対象にドローン研修会を開催	20
青年農業者を対象に鳥獣害対策研修会を開催	20
「愛南ゴールド」の魅力を普及	21
■南予地方局 産地戦略推進室	21
直売所出荷者向け野菜栽培講習会を開催	21
■八幡浜支局 地域農業育成室	22
今年産温州みかんの摘果について意識統一	22
ひめカレ学生へ就農啓発を実施	22
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	23
柿「刀根早生」の着色促進技術の定着を目指して	23
青年農業者による地元農産物のPR活動	23
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	24
高校生に対し地域農業学習会を開催	24
地元の子供たちが、大野ヶ原にんにくの収穫作業を体験	24
■八幡浜支局 産地戦略推進室	25
自動給水装置でさといもの水管理をスマートに!	25
■農産園芸課 高度普及推進グループ	25
夏秋野菜の高温対策について検討	25
第1回普及指導員果樹調査研究会を開催	26

## 6月のトピックス5選

標 題	いちごの病害虫対策を学ぶ講習会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年6月25日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	いちご農家等（20人）	連携機関	農林水産研究所、JA（周桑、東予園芸、えひめ未来、うま）	
普及指導内容	<p>○いちごの育苗期に当たる夏季は、病害虫防除の徹底が重要であり、高温の影響とみられる炭疽病やハスモンヨトウ等の病害虫が多発し、苗が枯死するなど、深刻な被害が発生したことで、一部の生産者においては、栽培の継続が困難となる事例も見られた。</p> <p>○そこで、普及指導員や農林水産研究所の研究員がいちご病害虫の生態や対策、最新の試験事例を紹介する講習会を開催し、当室から、管内の病害虫の発生状況や、薬剤の効果が持続する時間、萎黄病菌の感染経路などを紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○講習会後に実施したアンケートでは、全ての農家が「内容に満足した」「講習会で学んだ防除対策をぜひ講じていきたい」と回答しており、開催効果の高さが伺えた。</p> <p>○農家の関心が最も高いのは、「薬剤の効果が7日しか持続しない」という点であった。</p> <p>○今後、参加できなかった農家にも周知し、巡回時に重点的に指導していく予定。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>病害虫の発生状況等を報告</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>※感染株はのちに枯死する いちご炭疽病に感染した苗</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>いちご萎黄病に感染した株</p> </div> </div>				

標 題	さといも講習会の開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年6月2日	場所	農業生産法人（株）ファーム咲創 JA おちいまばり日高支店	
指導対象	さといも生産者（45人）	連携機関	JA おちいまばり、農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○令和7年産さといもは、概ね順調な萌芽をしているが、今後の栽培管理にむけた雑草対策と土入れの推進に向け、第1回さといも栽培講習会を開催した。</p> <p>○前半の生育と子いもの肥大促進を図るための土入れの効果とともに、一輪管理機による土入れの実演を行った。</p> <p>○また、雑草対策の徹底を図るため、効率的な除草剤の使用方法を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、土入れの実施時期や注意点等活発な質問があるなど、意欲が伺えた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、さといもの生産性向上に向け、栽培指導に取り組む。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：栽培講習会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：土入れの実演</p> </div> </div>				

標 題	JA 就農研修生に対する就農支援方を協議		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月25日	場所	JA えひめ中央新規就農研修センター 及び東部営農支援センター	
指導対象	JA 就農研修生 22 人（野菜 7 人、果樹 15 人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○令和7年4月に開所した JA えひめ中央新規就農研修センター（東温）の運営と研修生に対する就農支援方策について、開所後、初となる全体協議を行った。</p> <p>○同センターの主要品目である、いちごやなす、ユウカリ等の栽培状況を把握するとともに、研修生の作業内容を確認した。</p> <p>○JA から本年度の研修カリキュラムや現状の課題等を、当室からは支援内容について説明を行った後、今年度から新たに取り組む内容について意見交換した。</p>			
結果と今後	<p>○いちごの品種は「紅ほっぺ」で、現在、苗数 26,000 本（高設約 32a）を目標に採苗を進めており、なす、さといも、ユウカリ等も計画的に作付けを行っている。</p> <p>○今回、新たに、就農後の受け皿となる青年農業者組織等との交流や、若手普及指導員の技術力向上の場としての研修センターの活用について、実施に向け調整を進めることとなった。</p> <p>○また、今後、研修センターでの新たな栽培技術の習得メニューとして、いちご育苗の高温対策実証（ポット試験）を連携して実施予定。</p>			
				<p>左：いちご育苗施設で採苗状況の説明</p> <p>右：研修生に対する支援方を協議</p>

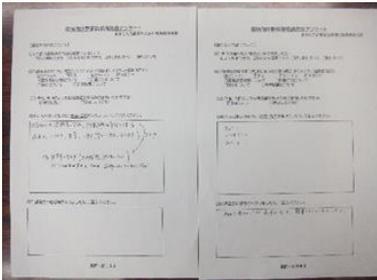
標 題	くり栽培における省力化技術の普及に向けて		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和7年6月5日	場所	JA えひめ南鬼北支所	
指導対象	愛媛県くり研究同志会員等（40人）	連携機関	JA 全農えひめ、関係 JA	
普及指導内容	<p>○班内ほ場及び現地できりの省力栽培技術の実証に取り組んでおり、その成果等について、愛媛県くり研究同志会総会後の研修会で報告した。</p> <p>○昨年9月に現地実証したドローン防除（モモノゴマダラノメイガ対象）の省力効果や防除効果、班内及び現地で実証している収穫ネットによる省力効果等について、具体的なデータを示し、普及を促した。</p> <p>○さらに、班内の実証展示の概要や、品種展示しているくりの特性等を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○会員からは「ドローンで使用できる農薬はどのくらいあるのか」「使用できる殺菌剤はあるのか」など質問があり、ドローン防除への期待の大きさが伺えた。</p> <p>○また、当班において成績良好な品種「美玖里」について、果実の大きさや収穫時期、耐暑性など、気候変動を意識した質問があった。</p> <p>○今後もくりやゆずなどの省力技術の実証・普及に取り組む。</p>			
				<p>左：ドローン自動航行散布</p> <p>右：設置した収穫ネット</p>

標 題	水稻乾田直播栽培の実証試験、順調！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和7年6月25日	場所	西予市宇和町現地ほ場	
指導対象	水稻乾田直播栽培実証農家（1人）	連携機関	JA ひがしうわ、農業共済南予支所、 全農えひめ	
普及指導内容	○当班では、将来的な水稻の規模拡大の技術として注目されている「乾田直播栽培」について、3品種（「コシヒカリ」「にじのきらめき」、飼料稲）で実証を行っており、4月の播種以降、定期的に生育状況を確認している。			
結果と今後	○現在のところ、慣行の稚苗移植栽培と比較しても、最高分けつ期の㎡当たり分けつ数、葉色（SPAD 値）、雑草対策について、良好であることを確認した。 ○今後は、ドローンを活用した穂肥の施用や病虫害防除を行い、出穂期に備えていく。 ○当班では、今後も収量・品質・省力化などの生産技術及び資材等の実用化試験を実施し、地域の生産者に有益となる技術確立を目指す。			
				<p style="text-align: center;"><b>【乾田直播栽培】</b> 代かきを行わず、直接播種する方法。育苗や代かき作業の省力化が図られ、全国的にも注目されている技術</p>
播種作業（4/9）		生育状況（6/25）		

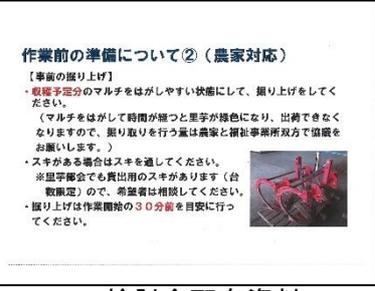
## えひめ農業

標 題	白いもの苗増殖や長期貯蔵に向けた取組みがスタート		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月2日、7日	場所	新居浜市金子	
指導対象	七福芋ブランド推進協議会他（17人）	連携機関	新居浜市	
普及指導内容	<p>○新居浜市特産の白いもの生産拡大を図るため、いも苗の増殖や長期貯蔵方法等を生産者やメーカー等と協議した。</p> <p>○また、白いもの生産者や関係機関で組織する「七福芋ブランド推進協議会」で、今後の振興方針等の協議や、親子での植付け体験会を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○協議の結果、早期採苗や安定したいもの長期貯蔵を図るため、県の「儲かるモデル産地育成システム確立実証事業」を活用し、野菜類の閉鎖型育苗施設としても活用可能なもの増殖貯蔵施設を設置することとなった。</p> <p>○また、推進協議会では、陸地部での生産や適応品種等について協議するとともに、地元での知名度を向上させることが必要であることを確認したことから、引き続き、関係団体等と連携し、地元菓子メーカー等と連携した商品開発等を推進する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>増殖貯蔵方法を協議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>推進協議会の開催</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>白いもの苗植付け体験会</p> </div> </div>				

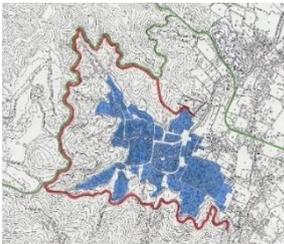
標 題	別子山地域で夏野菜の生産を推進		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月3日	場所	別子山公民館図書室	
指導対象	生産者（6人）	連携機関	JA えひめ未来、新居浜市	
普及指導内容	<p>○来年春にリニューアルオープンする四季菜広場の出荷品目の充実を図ることを目的に、別子山地域の標高差を活かした出荷品目を検討する検討会を開催した。</p> <p>○また、標高差を生かしたミニトマト等の実証栽培に取り組んでいる生産者を個別巡回し、高温対策等を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○検討会では、当室から、ミニセリリーなどの野菜や花壇苗を新規品目として生産者に紹介するとともに、高温対策技術等の普及を図ることを申し合わせた。</p> <p>○今後は、紹介した新規品目の安定生産に向けた指導を行い、出荷量が少なくなる夏場における品目の充実や出荷量の拡大を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>別子山地域打合せ会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>生産者の個別巡回</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>実証中のミニトマト</p> </div> </div>				

標 題	産直市出荷者確保に向けた野菜栽培講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月20日	場所	JA えひめ新居浜経済センター	
指導対象	講習会出席者（28人）	連携機関	JA えひめ未来、新居浜市	
普及指導内容	<p>○来年春にリニューアルオープンする四季菜広場の出荷品目の充実を図るとともに、直売所向け出荷者の確保育成を目的に、市民向け野菜栽培講習会を開催した。</p> <p>○講習会では、ミニトマトやなすなどの夏野菜の整枝方法等を説明するほか、遮光資材を使用した夏季の高温対策技術実証の概要等について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、ミニトマトの果皮が硬くなる理由や、石なすの発生原因などについて質問があるなど、参加者の関心の高さが伺えた。</p> <p>○当室が実施したアンケートでは、出席者2人が新たに直売所に出荷したいと回答するほか、現場で直接指導を受けたいとの要望があったことから、出荷者確保に向け、引き続き個別巡回等を実施する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>野菜栽培講習会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>野菜栽培講習会のアンケート</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ミニトマト安定生産技術実証</p> </div> </div>				

標 題	「親芋直接採取増殖法」の実証状況を生産者に報告		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月19、24、27日	場所	今治市、西条市、新居浜市 各地	
指導対象	技術実証農家（6人）	連携機関	今治支局地域農業育成室、今治支局産地戦略推進室	
普及指導内容	<p>○今治支局地域農業育成室が考案した「親芋直接採取増殖法」の実証に取り組んでいる今治市、西条市の6ほ場を支局担当職員と調査し初期生育の状況等を確認した。</p> <p>○同増殖法は、従来は廃棄していた前年の親いもから苗を増殖するもので、親いも分割時に土壌病害の罹病が確認できるだけでなく、育苗期間が15日程度と従来のセル育苗（60日程度）に比べて大幅に短縮でき、簡単に採苗できることから生産者の期待も高くなっている。</p>			
結果と今後	<p>○調査では、同増殖区では慣行の種芋栽培に比べ地上部が大きく、根張りや小さいもの着生も大幅に増加しており、乾腐病等の土壌病害の罹病についても確認されなかった。</p> <p>○今後、局予算事業で同増殖法の確立に取り組む今治支局と連携しながら新增殖法の確立と技術普及に取り組み、気象変動等にも対応できる産地づくりを推進する。</p> <p>○JA えひめ未来で講習会を開催した結果、既に同増殖法を試験栽培している1名に加え、新たに2名の農家が8年度からの実証に取り組むこととなった。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>慣行区 直接採取区</p> <p>西条市内集落法人の実証ほ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>新增殖法の講習会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>今治支局実証ほの現状（今治市菊間町） 草丈120cm 葉長60cm 6月19日の状況（奥にエチレン処理区と慣行区あり） 講習会での説明スライド</p> </div> </div>				

標 題	農福連携でさといも収穫の労働補完を推進		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月10日	場所	JA周桑営農管理研修センター	
指導対象	B型福祉事業所窓口（3事業所）	連携機関	JA周桑	
普及指導内容	<p>○福祉事業所利用者によるさといも収穫作業の労働補完を推進するため、JA周桑さといも部会及び福祉事業所等を対象とした検討会を開催し、昨年度の取組みの反省と本年度の作業委託面積等について協議をした。</p> <p>○昨年度は、管内の9つの福祉事業所がさといもの収穫作業に取り組み、集落営農法人6法人を含む13戸の生産者の作業を支援したところ。</p>			
結果と今後	<p>○検討会では、昨年度作業を委託した生産者から作業上の問題点が説明され、安全面の確保等が協議された。</p> <p>○今後は、9月上旬に生産者と福祉事業所を対象とした作業説明会を開催する予定で、福祉事業所と生産者の双方を引き続き支援することにより農福連携を推進する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>さといも作業の研修</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>農家と福祉事業者との協議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>検討会配布資料</p> </div> </div>				

標 題	青年農業者が水稻の乾田直播ほ場でスマート農機による作業を研修		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月17日	場所	西条市多賀	
指導対象	西条市、新居浜市水稻栽培者（11人）	連携機関	西条地区青年農業者協議会	
普及指導内容	<p>○西条地区青年農業者協議会が開催する研修会において、大型トラクターによる代掻き作業と乾田直播栽培について学ぶ現地研修会の開催を支援した。</p> <p>○研修会では、会員が取り組んでいる乾田直播のは場（1.2ha）で、経験豊富な会員が代掻き作業の基本について説明するとともに、GPS やレーザーリベラーを装着したトラクターの実演等を行った。</p>			
結果と今後	<p>○会員からは、乾田直播の耕うん作業のポイントや、雑草を抑えるための除草管理、代掻き作業時のほ場の水管理等について多くの質問があり、活発な意見交換が行われた。</p> <p>○今後も各種研修会の開催等を通して青年農業者の育成を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>研修会の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>GPS 付き大型トラクター</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>乾田直播ほ場</p> </div> </div>				

標 題	天満集落で鳥獣害対策の実施方法を検討開始		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年6月16日	場所	四国中央市土居町天満	
指導対象	天満集落関係者（2人）	連携機関	四国中央市農業振興課	
普及指導内容	<p>○天満集落では、平成23年に鳥獣被害防止対策総合支援事業（国補）を活用し、集落周辺にイノシシ被害対策としてワイヤーメッシュ柵を設置しているが、設置後14年が経ち、イノシシによる被害が集落内で発生しており、被害軽減に向けた新たな取り組みが必要であった。</p> <p>○当班では、平成23年に整備したワイヤーメッシュ柵等の設置状況を含め、効果的な侵入防止柵の整備方法や補助事業の活用方法について、集落関係者とともに検討を行った。</p>			
結果と今後	<p>○総合支援事業の対象経費や、近年の事業実施主体の取組事例を参考に、天満集落での必要経費や有効な設置方法など、検討すべき課題が明らかとなった。</p> <p>○今後、集落関係者、市担当者等と連携し、集落内のワイヤーメッシュ柵の設置状況等を的確に把握したうえで有効な対策技術を検討する等、天満集落の鳥獣害対策を効果的に進める。</p>			
 <p>侵入防止柵の位置情報を記入した地図</p>				

標 題	田植え体験学習による食育活動を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年6月4日	場所	四国中央市下柏町	
指導対象	伊予三島農業後継者クラブ会員（3人） 松柏小5年生（82人）、教員	連携機関	JA うま、四国中央市	
普及指導内容	<p>○伊予三島農業後継者クラブが実施する食育活動の一環として、松柏小学校5年生を対象とした「ひめの凜」の田植え体験学習の運営支援を行った。</p> <p>○当班から、食料を生産する農業の役割や重要性等についてわかりやすく説明し、児童の農業に対する理解を深めた。</p> <p>○また、田植えに慣れていない児童たちに対し、苗のとりわけ方や田んぼから足を抜くコツ等を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加した児童からは、「農業の大変さが分かった」「稲刈り作業もやってみたい」などの感想があり、農業について学ぶ意欲的な姿勢が伺えた。</p> <p>○9月には、稲刈り作業体験を行う予定で、今後も会員とともに児童の食農教育を支援する。</p>			
  <p>左：田植えの説明を受ける児童たち</p> <p>右：田植えする児童と指導する会員</p>				

標 題	「やまじ丸」産地振興対策検討会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年6月27日	場所	JA うま総合経済センター	
指導対象	やまじ丸生産振興協議会委員 (10人)	連携 機関	JA うま、四国中央市農業振興課	
普及指導 内容	○四国中央市の特産品であるやまのいも（ブランド名：やまじ丸）の産地維持・強化を図るため、検討会を開催し、昨年度の活動報告と、今年度の活動計画等を検討した。 ○産地の維持には、省力化栽培の実現が不可欠であることから、昨年度から実証しているアーチパイプを利用した省力支柱栽培とドローン防除について意見交換を行った。			
結果と 今後	○出席者からは、やまのいも栽培の省力化には、省力支柱栽培技術の開発に加え、機械化による定植作業や収穫調整作業の省力化が強く求められ、今年度から新たに実証等を行い検討することとした。 ○また、販売面では道後の宿泊施設等での食事メニューの利用促進に向けた取組みを今年度も引き続き行うことを申し合わせた。			
			<p>左：検討会では実績や計画 について意見交換</p>	
			<p>右：アーチパイプを利用した 省力化栽培実証（R6）</p>	

標 題	ぶどう栽培拡大を目指し栽培講習会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年6月11日	場所	JA えひめ未来 新居浜経済センター	
指導対象	ぶどう栽培者、栽培志向者（15人）	連携 機関	JA えひめ未来	
普及指導 内容	○産直施設のリニューアルに合わせた魅力向上の取組みとして、ぶどうの栽培を推進している JA えひめ未来新居浜管内で、栽培者や栽培に興味のある人を対象に、新規栽培者確保と栽培技術向上を目的に講習会を開催した。 ○講習会では、年間の栽培スケジュールと5～6月に行う「花穂整形」「摘粒」の方法を説明した後、経済センター内のハウスで実演を行った。			
結果と 今後	○参加者からは、病虫害防除や2年目以降の栽培管理等多くの質問が出され、栽培や出荷への前向きな姿勢が伺えた。 ○今後も産直市リニューアルに向けて、栽培者の技術向上を支援していく。			
			<p>ぶどうの栽培方法について説明</p>	
			<p>摘粒作業の実演</p>	
			<p>2年目のぶどう</p>	

標 題	「紅プリンセス」の夏季管理指導（菊間地区）		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年6月23日	場所	今治市菊間町松尾	
指導対象	「紅プリンセス」生産者（15人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○「紅プリンセス」の安定生産を図るため、摘果と夏季管理の講習会を行った。</p> <p>○本品種は、晩期の中晩柑として大玉が望まれるが、枝梢が硬化しやすく下垂しにくい ため、結果母枝先端に密生して着果した果実が日焼けを起こしやすく、優良果を損耗 しやすいという特徴がある。</p> <p>○そこで、現時点では、比較的日焼けを起こしにくい着生部位の優良果をやや多めに残 し、果実の肥大と枝の下垂を見ながら摘果するよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○昨年度末のせん定講習で、新梢を多数発生させ枝梢を下垂させるよう枝梢管理を指導 した。結果、今期は新梢の発生が多く、樹冠の拡大も順調である。</p> <p>○当室は引き続き関係機関と連携のうえ、県オリジナル品種の栽培を指導し安定生産を 図っていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>新梢の発生状況を確認</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>摘果管理を指導</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>摘果を実習</p> </div> </div>				

標 題	園地巡回等を通じて「紅まどonna」（施設）の夏 季管理を指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年6月16日、18日	場所	今治市波止浜（馬島）、大西	
指導対象	「紅まどonna」生産者（24人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○夏季管理が始まる6月中旬、摘果と夏季管理の現地講習会を行った。</p> <p>○当室からは、本品種は年末贈答用の外観が良好な大玉果が望まれていること、この時 期の果実の着生状況は収穫時の果実品質を左右すること、樹冠内の葉の密度が最大と なる今は、春季せん定の出来を判定するのに最適な時期であることを指導した。</p> <p>○なお、本品種は生育旺盛で夏季に過繁茂になり、しかも枝梢がしなやかで下垂しやす いため、樹勢の維持、高品質果生産、次年度の結果母枝確保のための夏季の新梢管理 のポイントも指導した。</p>			
結果と今後	<p>○昨年度末のせん定講習で、直花や果梗枝の短い有葉果が着生しやすい夏梢や短い春梢 をせん除するよう指導したところ、大西地区では多くの生産者で取り組み、早急なあ ら摘果が必要な生産者は少なかった。</p> <p>○当室は、引き続き関係機関と連携のうえ、県オリジナル品種の栽培を指導し、安定生 産を図っていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p>左：「紅まどonna」の摘果指導 右：「紅まどonna」の新梢管理 を指導</p> </div> </div>				

標 題	さといも新增殖法の定期巡回を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年6月19日	場所	今治市玉川町、菊間町ほか6カ所	
指導対象	さといも生産者（6人）	連携機関	JAおちいまぼり、東予地方局地域農業育成室	
普及指導内容	<p>○当室では、種いもの安定生産に向けた生産体系の確立に向け、局予算事業を活用し、親いもの腋芽を利用する優良種苗新增殖技術の実証ほを設置している。</p> <p>○新增殖法の実証ほでは、慣行栽培と比較して地上部の生育差が見られなくなったことから、掘り取り調査を実施した。</p> <p>○併せて、同日は、梅雨にも関わらず、マルチ内の土壌の乾燥に加え、葉が巻いている状態であったため、かん水作業について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○掘り取り調査の結果、新增殖法栽培区は慣行栽培と比較して子いもの着生数が増加しており、初期生育が前進していることが確認できた。</p> <p>○引き続き、生産現場の状況を把握し、栽培状況に沿った指導を生産者に向けて実施するとともに、技術協議会を立上げ、生産者・関係機関と協力し新增殖技術の確立を図っていく。</p>			
 <p>東予地方局と合同で生育調査を実施      地上部と地下部の生育（左：慣行栽培 右：新增殖法）</p>				

標 題	若手女性農業者交流会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年6月25日	場所	今治市玉川町 森のともだち農園	
指導対象	若手女性農業者（7人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○管内に点在する若手女性農業者のネットワーク化と情報共有による個々の課題解決を目的に若手女性農業者交流会を開催した。</p> <p>○女性目線で“楽に楽しくする農作業”をテーマに、当室からは、農業女子が企業と連携し開発した「らく足袋」「果樹専用長靴」を紹介するとともに、参加者からは「私のおすすめ農作業グッズ」を持参するなど、情報交換をした後、それぞれが抱える課題などについて意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、経営者3人、共同経営者2人、雇用就農者1人、研修生1人と、農業への関わり方は様々であるが、“楽に楽しくする農作業”は共通課題であり、活発な意見交換となった。</p> <p>○参加者からは「女性農業者同士のつながりが欲しかった」「つながりを持つことで日々の悩みも解決できる」等の声があった。</p> <p>○今後も継続して交流会や研修会を開催し、地域農業のリーダーとして育成していく。</p>			
 <p>自己紹介で交流を開始      おすすめ農作業アイテムを紹介      農業女子向けアイテムを試着</p>				

標 題	なし園の鳥獣害防止対策		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年6月12日	場所	今治市古谷	
指導対象	なし園生産者（2人）	連携機関	岡山理科大学	
普及指導内容	<p>○昨年ニホンザルによる被害を受けたなし園において、生産者並びに岡山理科大学と連携し、園地点検を実施した。</p> <p>○園地点検では、侵入経路や修繕箇所を確認し、ワイヤーメッシュの隙間やネットの破れ等へ目印を付けた。</p> <p>○また、ワイヤーメッシュやネット破れなど約20か所の補修を行った他、侵入経路となっていた雑木の伐採や高所の枝打ちを行い、侵入防止策に取り組んだ。</p>			
結果と今後	<p>○6月末時点で鳥獣被害は確認されておらず、今後も岡山理科大学等関係機関と連携し、被害防止対策を行う。</p> <p>○また、今回講じた対策の効果をセンサーカメラ等で検証し、引き続きさる被害の対策技術の確立に取り組む。</p>			



木の伐採と枝打ちによるさるの侵入防止対策

標 題	いちご単肥配合による肥料コスト削減を実証		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和7年6月9日	場所	今治市朝倉地区	
指導対象	いちご生産者（1人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○甘長とうがらしでこれまで取り組んできた、単肥配合による肥料コスト削減技術の応用（横展開）として、いちご高設栽培での現地実証を進めている。</p> <p>○本年4月～6月中旬にかけて EC や葉柄中の硝酸イオン濃度を測定しながら管理した実証結果を生産者と JA で共有の上、今後の普及方法について検討した。</p>			
結果と今後	<p>○配合液肥で栽培した対照区と比較した結果、同等の生育を維持したまま肥料コストを46.7%、年間当たり8万円（約11万円/10a）の削減が可能となる見込みとなった。</p> <p>○次期作では単肥配合を周年実証した影響を調査するとともに、今後は管内で養液栽培に取り組むいちご農家への導入を図るなど、更なる技術の普及に取り組む。</p>			



対照区と同等に生育



ECなどを測定しながら管理



結果を関係者で共有

標 題	メロンの仕立て方比較試験の果実調査を実施		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和7年6月17日、19日～20日、 23日～26日	場所	今治市朝倉下	
指導対象	タカミメロン生産者（1人）	連携 機関	JAおちいまばり、(公財)園芸植物育 種研究所	
普及指導 内容	<p>○メロンと同じウリ科のスイカでは、従来の仕立て方である半立体栽培より地這栽培の方が光合成産物が増加し、果実肥大に効果的であるとの知見を踏まえ、両者の比較試験を昨年度から継続して実施している。</p> <p>○今年度の果実調査では、6月17日から約1週間にかけて着果50日を迎えた果実を収穫し、重量や縦横長、糖度等の状況を調査した。</p>			
結果と 今後	<p>○今年度は生育途中でネコブセンチュウ類による被害が見られたため、事後対策を指導するとともに、現在、収益性に関するデータを取りまとめ中。</p> <p>○今回の結果は、4月から5月に実施した生育及び労働力調査と合わせて、8月に開催予定の報告会で、生産者やJA等関係機関と共有する予定としており、今後、販促イベントも組み合わせながら、今治市産タカミメロンの産地化とブランド化を支援していく。</p>			
				<p>左：果実の収穫作業</p> <p>右：糖度検査の実施状況</p>

標 題	次世代かんきつ整備園強化事業でワーキングチーム会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月26日	場所	中予地方局	
指導対象	中予地区柑橘農業復興・再編ワーキングチーム会（7人）	連携 機関	JAえひめ中央、農村整備第一・二課	
普及指導 内容	<p>○中予地区で進めている樹園地の整備状況を関係機関で情報共有するため、ワーキングチーム会を開催し、中晩柑類を中心とした魅力ある果樹産地づくりを関係者一丸となって進めていくことを確認した。</p> <p>○普及組織で実証しているテフグラスやシロクローバーなどの緑肥作物を用いた土壌浸食防止や、地元水産食品企業が販売する森林緑化資材である「くらげチップ※」を利用したかんきつ苗木の健苗育成について関係者と情報共有を図った。</p>			
結果と今後	<p>○緑肥作物の被覆状況や土壌の保全、苗木の生育などを調査して土壌改善・保全に向けた土づくり対策を検討するとともに、整備予定園の営農計画の作成を支援する。</p> <p>○今後、地方局予算を活用してスマート農業機械の利用による作業の省力化に関する実演会を開催する予定。</p>			
<p>【くらげチップ】 天然のくらげを土壌改良材として乾燥させたもので、保水力が高く、生分解されるなど環境にも優しい資材。</p>				
		くらげチップ		園地を覆うテフグラス

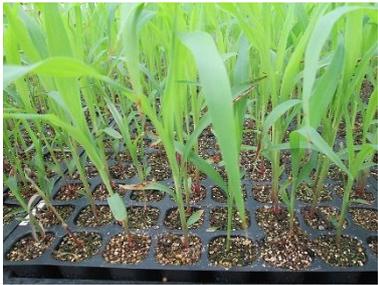
標 題	青年農業者が高温対策技術を学ぶ	機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月10日	場所	東温市役所
指導対象	東温市青年農業者協議会（8人）	連携機関	東温市
普及指導内容	<p>○青年農業者を対象に、最新の農業技術に関する勉強会を定期的開催。</p> <p>○6月10日の第1回は、新たな高温対策技術として期待される「バイオスティミュラント（BS）※」をテーマに、その特徴や利用方法について学習した。</p> <p>○今回の勉強会開催は、青年農業者が最新技術について迅速かつ効果的に活用できるよう、当室が東温市青年農業者協議会に提案して実現したもの。</p>		
結果と今後	<p>○参加者のBS資材への関心は高く、高温ストレスが発生する前に適切にBS資材を使用すれば、ストレスの低減効果が期待できることについて理解を深めた。</p> <p>○今後は、いちご、トマト、ブロッコリー、水稲の4品目でBS資材の現地実証を行う予定で、実証結果は10月の勉強会で報告することとした。</p> <p>○また、次回の勉強会は、7月に「天敵を活用した栽培技術」をテーマで開催予定。</p>		
<p>【バイオスティミュラント（BS）】 植物の生理機能に刺激を与えながら、自らの免疫システムを活性化して、高温などの環境ストレスへの耐性を高める資材で、農薬や肥料とは異なる新しいカテゴリーの資材。</p>		 <p>BSについて意見交換</p>	

標 題	ユーカリ株枯れ症状低減に向けた取組み	機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月2日～6月10日	場所	JA各所及び管内各地
指導対象	JA松山市ユーカリ専門部会（10名） JAえひめ中央ユーカリ部会（92名）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）
普及指導内容	<p>○排水の悪い水田ほ場で問題となっているユーカリの株枯れ症の発生を防止するため、JAと連携し、管内7地区での栽培講習会を通じ排水改善対策について指導した。</p> <p>○同対策として、アースオーガ（穴掘り機）を利用し、水田ほ場に縦穴をあけて排水性を改善するもので、講習会では、排水用の縦穴の作り方や設置場所等について現地での実演も交え説明した。</p>		
結果と今後	<p>○今回の講習会をきっかけに、同対策に取り組みたいとの要望があったことから、今後は、対策に取り組む生産者を重点的に指導し、導入後の排水の改善状況等を把握しながら継続的にサポートする。</p>		
		 <p>左：排水改善対策の現地指導</p> <p>右：使用したアースオーガ</p>	

標 題	若手女性農業者が摘果方法を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月30日	場所	松山市興居島	
指導対象	若手女性農業者組織「しとらす」 (12人)	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○興居島地区で柑橘栽培を行っている若手女性農業者を対象に、今年度の生育状況や近年の気象動向を踏まえた摘果方法を指導した。</p> <p>○参加者の園地で、夏季の高温による品質低下を防ぐためのあら摘果作業について実践を交え指導するとともに、室内研修において、品種や樹齢、着果量に応じた摘果のポイントや留意事項の説明を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、品種による摘果位置の違い、樹齢による適正着果量、日焼け果を防ぐための対策等多くの質問があり、高品質生産への関心の高さがうかがえた。</p> <p>○同組織からは、今後、生産に係る研修活動をさらに充実させたいとの意向があることから、当室ではスマート農機の利用等をはじめ労働改善にも結び付くような研修を開催予定。</p>			
				<p>左：摘果作業の実践指導</p> <p>右：室内研修</p>

標 題	「媛かぐや」産地育成推進会議を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和7年6月3日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	「媛かぐや」産地育成推進会議会員 (生産者ほか13人)	連携機関	伊予市、松前町、砥部町、JA(全農えひめ、松山市、えひめ中央)ほか	
普及指導内容	<p>○「媛かぐや」の栽培体系の確立と需要創出により、水稻転作高収益モデルを確立し、当地域での産地化を図るため、同会議を開き、今年度の取組みについて協議した。</p> <p>○会議では昨年度までの実績を踏まえ、収量確保のための栽培体系の導入と高級食材としてのイメージ定着のための実需創出にチャレンジすることを当班から提案した。</p>			
結果と今後	<p>○生産面では、増収を図るため4月下旬からの種芋定植による栽培方法を主体として取り組む。</p> <p>○また、販売面では、新たに大都市圏の高級飲食店等への売り込みに加え、販売期間の延長を想定した貯蔵試験や規格外品の新たな販路開拓について取り組む。</p> <p>○今後、個別巡回によるかん水などの基本管理の指導をはじめ、12月頃から高級料理店等への販促活動や認知度向上のための試食販売会などを適宜行い、生産技術の検証や円滑な流通加工体制を構築する。</p>			
				<p>左：今年度の取組みを協議</p> <p>右：種芋を定植したほ場 (5/26時点)</p>

標 題	水田抑草ロボ「アイガモロボ2」の実演会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和7年6月23日	場所	伊予市下三谷	
指導対象	伊予地区集落営農組織等連絡協議会 及び伊予地区農業技術者連絡協議会 農産部会 (20人)	連携 機関	(株)ISEKI Japan 中四国カンパニー	
普及指導 内容	<p>○高齢化や担い手不足の対策としてスマート技術の導入を推進するため、水田抑草ロボ「アイガモロボ2」の実演会を開いた。</p> <p>○同会の開催にあたっては、集落営農組織から水田における省力化に結び付くスマート農機について相談が当班にあり、今回メーカーと連携して実施した。</p> <p>○当日は、メーカー担当者から抑草のメカニズム、全国各地での実績、使用上の留意事項について説明があった後、水田抑草ロボの自動航行による実演を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「苗が倒れても大丈夫なのか」「水深はどの程度必要か」「ブラシの耐用年数」等の質問があり、水田抑草ロボに関する認識を深めた。</p> <p>○今後も集落営農組織、農業者、指導者等へ各種スマート技術の情報発信を行い、組織や農業者の労働改善に取り組む。</p>			
<p><b>【アイガモロボ2】</b> 全長 900mm、全幅 810mm、全高 253mm 重量 6kg ＜抑草のメカニズム＞ 田んぼを濁らせ、雑草が光合成をしにくい環境を作ることと巻き上げられた土が雑草種子や芽に堆積することで雑草の発生を抑える。</p>				
		アイガモロボ2		自動航行の実演

標 題	雑穀の生産拡大に向け種苗を配布		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年6月16日～23日	場所	久万高原町内全域	
指導対象	雑穀栽培予定者 (26人)	連携 機関	久万高原町	
普及指導 内容	<p>○雑穀の生産振興対策として、事前に申し込みのあった町内の26人及び町農業公園に農業指導班が育苗した雑穀（こきび、たかきび、地とうきび）の苗（約7,300本）を配布するとともに、うち3人及び農業公園には、地とうきびの種子（約3kg）も併せて配布した。</p> <p>○今後、雑穀栽培の実証展示ほを町内2か所及び当班に設置するとともに、巡回指導等により配布した苗の栽培管理を徹底し、良質生産を支援する。</p>			
結果と 今後	<p>○今年度の雑穀栽培面積は昨年に比べ10a増加し約260aとなる見込み。</p> <p>○実証展示ほの設置により生産者の栽培技術の向上を図るとともに、新規生産者の掘り起しを行う。</p>			
				<p>左：当班で育苗した雑穀苗 （たかきび） 右：雑穀苗の定植作業</p>

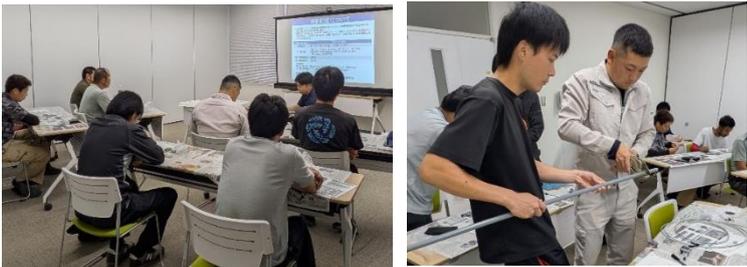
標 題	「甘平」「紅プリンセス」の生産安定に向けて！		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年6月30日	場所	果樹研究センター会議室	
指導対象	JA 営農指導員、市職員等 (24人)	連携機関	JA (えひめ中央、松山市)、松山市、伊予市、果樹研究センター、農産園芸課	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「甘平」「紅プリンセス」の安定生産技術の確立に向けて「魅力ある中晩柑産地づくり会議」を開催した。</li> <li>○今年度に取り組む実証内容等について関係機関と協議するとともに、各JAから今年の「甘平」「紅プリンセス」の生育状況について報告を受け情報共有を図った。</li> <li>○「紅プリンセス」のほ場において、果樹研究センター担当者による栽培技術のポイントの説明と意見交換を行った。</li> </ul>			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過去2年は、夏秋期の高温干ばつにより「甘平」の裂果が多く、関係者から安定生産を求める声が強いことから、引き続き裂果の軽減に向けた対策技術の実証を行う。</li> <li>○「紅プリンセス」は、昨年の実証結果の確認と「紅プリンセス」合格率の向上を目的とした実証を行う。</li> <li>○JAからは、かんきつの日焼け対策について質疑があり、今後、連携して対策技術の実証を行うこととなった。</li> </ul>			
				<p>左：中晩柑産地づくり会議 右：ほ場研修</p>

標 題	いちご育苗時の高温対策技術を講習		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月17日	場所	JA えひめ南宇和島営農センター及び現地ほ場	
指導対象	宇和島地区いちご研究連絡協議会員 (19人)	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今夏も高温が予想されることから、寒冷紗による被覆や施肥・水管理等による高温対策、病害虫発生動向などについて講習した。</li> <li>○県育成品種「あまおとめ」育苗ほ場では、生育状況を確認するとともに、涼しい時間帯を選んでの作業やこまめな休憩、水分補給など、栽培者自らの熱中症対策について説明した。</li> </ul>			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加者は「すでにランナー先枯れ症が出始めている」「カルシウム欠乏対策は」など、お互いに情報交換を行った。</li> <li>○今後は、現地巡回を密に行い、健全な苗の確保につなげていく。</li> </ul>			
				<p>左：室内研修 右：現地で生育状況を確認</p>

標 題	第1回ニューファーマー講座の開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年6月19日	場所	みかん学校、宇和島市吉田町	
指導対象	新規就農者（12人）	連携機関	JA えひめ南、宇和島市	
普及指導内容	<p>○新規就農者の専門的な農業知識や技術向上のため、就農5年以下の農業者を対象としたニューファーマー講座を開催した。</p> <p>○室内研修では、かんきつ主要病害虫の発生生態と対策について、病害虫や被害症状の画像を用いて説明し、現地ほ場では実際に発生している病害虫を観察した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「病害虫の生態や具体的な対策などがとても参考になった」「今後は発生状況を見極めた上で防除したい」等の、前向きな意見が聞かれた。</p> <p>○今後は、受講者から要望が多い「鳥獣害対策」「せん定」を盛り込んだ講座を計画する。</p>			
				<p>左：病害虫や被害症状の実際を学ぶ 右：発生している病害虫を確認</p>

標 題	マイコス菌コーティング種子を用いた乾田直播にチャレンジ！		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和7年6月23日（芽立ち確認）	場所	鬼北町内10ほ場	
指導対象	水稲生産者	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○鬼北地域の一部水田では水資源が限られていることから、用水不足に対応しつつ、収量安定や省力化、節水効果などが期待できるマイコス菌をコーティングした種子を用いた乾田直播栽培の実証を実施した（5月13日～6月3日）。</p> <p>○乾田直播は、苗の生育状況や雑草の発生状況によって収量が不安定になる傾向があるため、芽立ちの状況を確認しながら、播種量（3～5kg/10a）や播種深度（1～2cm）、除草剤の適正使用に加え、根に共生して水や養分の吸収を助けるマイコス菌の活用方法について技術指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○6ほ場で目標の70～120本/m<sup>2</sup>の発芽を確認した。生産者からは、「育苗の手間も省けて、生産コストも下がる」「来年は播種機を綿密に調整してムラのない発芽を目指したい」など意欲的な意見が聞かれた。</p> <p>○今後は、生育、収量、品質等を調査・検証し、乾田直播栽培の普及につなげる。</p>			
				<p>汎用型播種機（左）による「にこまる」の芽立ち状況（右：70～120本/m<sup>2</sup>）</p>
				<p>湿田用播種機（左：降雨後用）による「にじのきらめき」の芽立ち状況（右：70～120本/m<sup>2</sup>）</p>

標 題	認定農業者を対象にドローン研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年6月9日	場所	県愛南庁舎会議室	
指導対象	愛南町認定農業者協議会員(15人)	連携機関	愛南町、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○水稻・かんきつ・野菜の農薬散布が大きな負担となっていることから、認定農業者を対象に、作業時間の大幅な短縮が期待できる農業用ドローンの活用研修会を開催した。</p> <p>○(株)ミヤモトオレンジガーデンの宮本泰邦氏から、農業用ドローン利用のメリットや資格取得方法、技術的な課題などについて、動画等も取り入れた研修を受け、活発な質疑応答が行われた。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「起伏の大きい果樹園の農薬散布から解放されるなら助かる」「農薬を高倍率で混用することは大丈夫か」など、前向きな意見や質問が相次いだ。</p> <p>○愛南町では昨年度のドローン防除実績が約41haと増加傾向にあるため、引き続き農業用ドローンの普及啓発に取り組む。</p>			
 <p>ドローン研修会</p>				

標 題	青年農業者を対象に鳥獣害対策研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年6月13日	場所	県愛南庁舎会議室	
指導対象	愛南地区青年農業者協議会員(9人)	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○イノシシ、シカ等の野生鳥獣による農作物の被害額が高止まりしている中、狩猟者の高齢化・減少が進んでいるため、青年農業者を対象に対策研修会を開催した。</p> <p>○えひめ地域鳥獣管理専門員である当班職員が、くくりわなによる効率的な捕獲方法について講義した後、初心者でも扱いやすく捕獲が見込まれるくくりわなの製作を実習した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「これまで基本的な留意点について講義を受けたことがなかったので参考になった」「くくりわなのワイヤー部分の製作方法が分かったので経費削減につながる」と今後の鳥獣害対策活動に意欲的な意見があった。</p> <p>○当協議会は、資機材を整備し自由にくくりわなを製作できる体制が整っており、当班では引き続き、捕獲と侵入防止、地域体制づくりを組み合わせた対策指導に取り組む。</p>			
 <p>左：えひめ地域鳥獣管理専門員による講義 右：くくりわな製作実習</p>				

標 題	「愛南ゴールド」の魅力を普及		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年6月15日、17日	場所	愛南町平城公民館、 愛南町立平城小学校	
指導対象	愛南生活研究協議会員（2人）、町内小学生（18人）、平城小学校3年生（21人）	連携機関	愛南町平城公民館、 愛南町立平城小学校	
普及指導内容	<p>○愛南生活研究協議会が、小学生等を対象に食文化普及講座を開催し、「愛南ゴールド」を使用したフルーツパフェと飲むゼリーの調理実習を行った。</p> <p>○当班からは「愛南ゴールド」の栽培についてクイズ形式の授業を行い、地域農産物への関心を高めた。</p>			
結果と今後	<p>○参加した小学生からは「美味しい」との歓声があがり、アンケート調査では参加した全員から「また食べたい」との回答があった。</p> <p>○実際に調理を行う講座は好評であるため、かんきつに限らず地域産物を利用した食文化普及講座の開催を引き続き支援する。</p>			
		<p>左：果実の搾汁にチャレンジ 右：クイズ形式で実施した講座</p>		

標 題	直売所出荷者向け野菜栽培講習会を開催		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年6月25日	場所	宇和島市立三間公民館	
指導対象	道の駅みま出荷部会員（30人）	連携機関	道の駅みま、トキタ種苗株式会社	
普及指導内容	<p>○直売所を中心とした地域農産物の生産振興を図るため、野菜栽培講習会を開催した。</p> <p>○当室からは夏秋野菜を長く収穫するため、かん水や肥培管理、枝葉の整理作業等、気を付けるべきポイントを品目ごとに説明。</p> <p>○また、近年注目されているケールやカリフラワーなどの特徴ある西洋野菜について、種苗会社から講師を招へいし、試食を交えて講義を実施。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「(夏秋野菜は) 夏季終盤まで持ちこたえられないが多かったので、学んだ内容を意識して管理したい」「(西洋野菜は) 簡易な調理でも想像以上に美味しく、ぜひ作ってみたい」といった意見があった。</p> <p>○今後は7月上旬に種苗会社や育苗業者と種苗供給について調整し、8月中旬に再度、秋冬野菜栽培講習会を開催する予定。</p>			
		<p>左：地域のほ場状況を踏まえて説明 右：紹介した西洋野菜を味わう出荷者</p>		

標 題	今年産温州みかんの摘果について意識統一		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和7年6月16日	場所	八幡浜市川上町の園地	
指導対象	JAにしよう営農指導員（10人）	連携機関	JAにしよう	
普及指導内容	<p>○今年産温州みかんの摘果作業の本格的なシーズンを迎えるにあたり、JAにしようと当室の指導方針について意識統一を図るための目合わせ会を実施した。</p> <p>○会では、着果量や樹勢等に応じた摘果の方法や程度について確認するとともに、経営園地の着果量や品種等に合わせた作業の優先順位を指導するよう申し合わせた。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「指導方針が明確になったので、これから始まる講習会や個別指導に役立てたい」との意見が聞かれた。</p> <p>○引き続き、関係機関と情報共有や意識統一を図りながら、温州みかんの連年安定生産に向けた栽培指導に取り組む。</p>			
		<p>着果過多樹の摘果方法を確認</p>		

標 題	ひめカレ学生へ就農啓発を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和7年6月25日	場所	八幡浜支局	
指導対象	えひめ農業未来カレッジ学生（計11人）	連携機関	えひめ農業未来カレッジ	
普及指導内容	<p>○当室では、ひめカレ学生の「先進農家体験学習」の初日に受入式を実施しており、今回、受入式に合わせ、初めて就農啓発活動を実施した。</p> <p>○西宇和地区での就農を考えてもらえるよう、管内農業の魅力と就農者の声をまとめたPR動画や、農業関係の進路として考えられるパターン（①独立就農、②雇用就農、③指導員として従事）について説明するとともに、青年農業者組織活動、新規就農者向け講習会「マンダリン・シトラス合同スクール」の取組みを紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○学生は熱心に説明を聞き「将来の目標に向けて実習をしたい」「西宇和地区での就農のイメージが湧いた」など、関心が高まった様子がうかがえた。</p> <p>○「先進農家体験学習」の実施後は、就農意向や知りたい情報等について聞き取りを行い、今後の就農啓発活動の効果的な方法に生かしていく。</p>			
		<p>就農 PR 動画の放映や就農パターン、青年組織の活動、新規就農者向け講習会の取組みを紹介</p>		

標 題	柿「刀根早生」の着色促進技術の定着を目指して		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年6月23日～27日	場所	内子町大瀬南	
指導対象	JA 愛媛たいき柿部会 刀根早生生産農家 (28人)	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○秋季の高温による着色遅延が問題となっている柿「刀根早生」について、着色促進技術「環状剥皮」の普及による早期出荷と農家所得の向上を目指し、当班では、講習会や個別巡回により技術指導を実施した。</p> <p>○「環状剥皮」は、2、3年生の強めの側枝に処理すると効果が高い一方で、処理する枝数が多くなること、枝折れ予防のための支柱による補強が必要であること等を説明。</p> <p>○煩雑さを感じる農家に対しては、省力的な方法として、冬季にせん除予定の大枝に処理をするよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○農家は「環状剥皮を積極的に行うことで所得向上を目指したい」と意欲をみせた。</p> <p>○当班は、産地全体への技術定着を目指して、未だ実施していない農家への推進を重点的に行う。</p>			
<p><b>【環状剥皮】</b> 枝の樹皮部分を幅数cm程度環状に剥ぎ取ることで果実品質の向上等を図る技術。 葉で作られる光合成産物が枝葉に留まるため、果実の着色や肥大が促進される。</p>				
				
		左：講習会で指導 右：大枝への環状剥皮（支柱が不要）		

標 題	青年農業者による地元農産物のPR活動		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年6月21日	場所	大洲市大洲	
指導対象	大洲市青年農業者協議会 (6人)	連携機関	大洲市役所	
普及指導内容	<p>○同協議会(愛称:アグルビト)の若手農家が、「えひめつくりてマルシェ in OZU」に、こだわりの農産物等をPRするために出店した。</p> <p>○当班は、計画段階から内容等実施に向けた企画指導・運営まで、伴走支援を実施。</p> <p>○餌にこだわり育てた「愛姫牛<sup>あいひめぎゅう</sup>」や米・ワサビ・ショウガなど、全て大洲産の食材を使用した肉寿司や、生鮮野菜などを対面販売した。</p>			
結果と今後	<p>○大洲産食材を使用した肉寿司を提供したことで来場者の関心を集め、地元農産物の魅力を伝えることができ、消費者との会話が弾む「顔の見える場」の提供にも繋がった。</p> <p>○当班は、今後も会員が消費者と交流でき、お互いに理解が深まる機会の提供と支援を行う。</p>			
				<p>左：提供した肉寿司 右：参加した アグルビトの皆さん</p>

標 題	高校生に対し地域農業学習会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和7年5月29日	場所	県立宇和高校 農場研修室	
指導対象	県立宇和高校生物工学科生徒 (29人)	連携 機関	県立宇和高校	
普及指導 内容	<p>○若者へ農業の魅力を伝え、将来の就農者を確保育成するため、県立宇和高校生物工学科の生徒を対象に「地域農業学習会」を開催した。</p> <p>○学習会では、愛媛県や西予市の農業の現状や、農業とSDGsの関係等について講義した。</p> <p>○また、生徒に「自分の考える儲かる農業」について考えてもらい、発表を行った。</p>			
結果と 今後	<p>○生徒の考える儲かる農業では、「収穫に係る労力を減らすため観光農園に取り組む」「農業者同士で新たなブランドを作り、安定供給先を探す」など、様々なアイデアが発表され、就農した際の具体的なイメージの想起が図られた。</p> <p>○講義全体を通して、生徒からは「農業は大変という印象があったが、いろいろと挑戦できる分野だと分かり、興味が沸いた」「西予の農業をもっと応援していきたい」といった意見が寄せられた。</p> <p>○当班では、今後も教育機関と連携し、将来の就農者確保に取り組む。</p>			
				<p>左：指導班による講義</p> <p>右：自分なりの「儲かる農業」について考える生徒たち</p>

標 題	地元の子供たちが、大野ヶ原にんにくの収穫作業を体験		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和7年6月19日	場所	西予市野村町大野ヶ原	
指導対象	西予市立大野ヶ原小学校児童(8人) 県立野村高校生徒(25人) 大野ヶ原にんにく組合(3人)	連携 機関	西予市、(株)祐、県立野村高校、 西予市立大野ヶ原小学校	
普及指導 内容	<p>○大野ヶ原で生産する寒地系にんにく(品種:「福地ホワイト六片」)の理解促進とPRを図るため、地元の小学生・高校生を対象に、収穫体験交流会を開催した。</p> <p>○当班は、手堀りによるにんにくの収穫や根切り調整作業の方法を説明した。</p> <p>○また、高校生からは、昨年度開発した大野ヶ原にんにくとのコラボ商品であるバーベキューソースを使用した料理の紹介があった。</p>			
結果と 今後	<p>○児童からは「手で収穫するのは大変だったけど、機械を使うと楽に収穫することができてすごいと思った」「大野ヶ原にんにくを早く食べたい」といった感想が聞かれた。</p> <p>○高校生が開発したバーベキューソースを使用した料理レシピは、今後、バーベキューソース取扱店で配布する予定である。</p> <p>○当班は、今後も大野ヶ原にんにくの安定生産と知名度向上に取り組む。</p>			
				<p>左：高校生が考案した料理の紹介</p> <p>右：高校生・小学生による収穫</p>

標 題	自動給水装置でさといもの水管理をスマートに！		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和7年6月3日	場所	西予市宇和地区	
指導対象	JA 東宇和さといも生産者	連携機関	JA ひがしうわ 県農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○さといも栽培において夏季のかん水は収量を左右する非常に重要な技術であるが、近年は夏季の高温により、かん水の頻度が増え、農家の大きな負担となっている。</p> <p>○そこで、その負担を軽減するため、自動給水装置を活用した水管理の省力化の実証ほを関係機関の協力のもと設置し、装置の操作方法等を農家に説明した。</p>			
結果と今後	<p>○ほ場に行かなくてもスマホで水管理が可能となり、リアルタイムで水位・水温も確認することができるため、農家からは「これは便利で助かる」と高評価であった。</p> <p>○今後、関係機関と連携しながら作業時間の削減状況や、土壌水分の推移、収量の増減等について調査し、効果を検証することとしている。</p>			
				
自動給水装置の設置		自動給水装置によるかん水		水位センサー

標 題	夏秋野菜の高温対策について検討		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和7年6月6日	場所	農林水産研究所花き研究指導室	
指導対象	JA 営農指導員、普及職員等 (72人)	連携機関	JA 全農えひめ、普及拠点等	
普及指導内容	<p>○近年、高温の影響と見られる冬春・夏秋野菜（露地品目）の異常黄化や葉枯れ等が確認されていることから、野菜調査研究会において、野菜生産上の問題点や対策について普及拠点から事例を報告し、協議・情報共有を行った。</p> <p>○また、肥料会社に講師を依頼し、「園芸作物の高温対策と土づくり」について、普及職員・JA 営農指導員の技術力向上を図った。</p>			
結果と今後	<p>○各地域の野菜生産上の問題点や実施している対策について共有することができた。</p> <p>○また、本県野菜の収量・品質向上に向け、野菜の高温耐性を高める技術について認識を深めることができた。</p> <p>○今後も関係機関と連携しながら、高温対策に取り組む。</p>			
				
			左：普及拠点から事例報告 右：講演	

標 題	第 1 回普及指導員果樹調査研究会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和 7 年 6 月 20 日	場所	農林水産研究所果樹研究センター	
指導対象	果樹調査研究会員 (57 人)	連携機関	各局支局地域農業育成室 産地戦略推進室 農林水産研究所果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○当グループは、「紅プリンセス」の高品質安定生産技術の確立を目指し、令和 5 年度から普及機関等と協力して栽培実態調査及び技術実証に取り組んでいる。</p> <p>○今回、昨年度までに得られた調査・実証の結果を共有することで、普及指導員の知見の向上を図った。</p> <p>○また、農林水産研究所果樹研究センターから、「紅プリンセス」の高品質安定生産に向けた栽培管理のポイントについての講習とほ場での摘果の実演を行い、普及指導員の栽培技術や指導力の向上を図った。</p>			
結果と今後	<p>○高品質栽培技術や生理障害が発生しやすい園地の特徴等を共有し、県としての現地指導方針を一致させるための意見交換ができた。</p> <p>○今後も高品質安定生産を目指し、関係機関と連携のうえ「紅プリンセス」の産地拡大に取り組む。</p>			
				<p>左：調査・実証結果を共有 右：摘果実演</p>

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543